

概要

2011年【古典を読む-歴史と文学-】 「いま明かされる古代XIX」

第3回 正倉院の文字資料 - 調査の現場から -

開講日時：12/17（土）午後2：30～4：30

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：宮内庁 正倉院事務所 保存課 主任研究官

飯田 剛彦(いいだ たけひこ)先生

概要：八世紀の生の資料を大量に伝える正倉院は、世界的にみても稀有な収蔵施設である。そこに保存された、667巻5冊を数える正倉院文書は、編纂された史書や法制史料からは窺えない、より社会の実態に即した歴史上の事実を伝えている。さらに、正倉院には、宝物の由緒を記す献物帳や宝物の点検・出納記録、伝世木簡や古代の地図など、極めて多種多様な文字資料が残される。

これらを相互に関連づけて理解し、また、正史の記述、器物や染織品などの他の宝物、出土木簡や考古遺物などと併せみることによって、より豊かな歴史像を描き出すことが可能となる。

今回の講座では、正倉院宝物の保存・調査に携わる立場から、正倉院事務所における文字資料の調査の実際を紹介すると共に、正倉院内外の資料との比較検討から最近分かってきたことがらについて、具体的にお話してみたい。